



ホルスタインの子牛。ウシが眠るときには首を胸にもたげる=7月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校

ジャージー品種と御柱通沿いの運動場に放されているホルスタイン品種がいます。ジャージー牛のミルクは脂肪や固形分が多いのでバターやチーズの原料として最適です。一方、ホルスタイン牛は乳量が多動物中最大なので、飲用として最適です。ジャージー牛はフランスとイギリスの間の海峡にある小島出身の品種です。皆さんも良く着るジャージもこの島のニットが始まりです。ホルスタイン牛はオランダとドイツの北海に面したシュレスウィヒホルスタイン地方出身の品種です。

どちらも、暑くも寒くもない温暖な地域出身なので、15〜18度が好みの気温で、日本の暑さにはことさら苦労しています。皆さんは1平方メートル1時間に1〜2・6リットルの汗をかきませんが、ウシは体重が10倍以上もあるのに0・6〜1リットルしかかけません。ウシは毎秒1リットルの風にあたるだけで、体感温度は11度も下がるので、日当たりでも風の当たる所を選んで休みます。どこで休んでいるかをよく見てね。
(八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部長、佐藤衆介) 〓 随時掲載

ジャージーとホルスタイン

2 大学校には2種類のウシがいます

鼻が黒く、その周りが白い糊口(のりくち)が特徴のジャージー子牛は7月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校

八ヶ岳山麓 ウシ編 動物ふれあい日記



大学校で開発した、どこにでも持ち運び可能なミルクカーでジャージー放牧牛を搾る職員の伊藤由利香さん=8月7日、八ヶ岳中央農業実践大学校

自由に動けるように鎖を1本以上長くした繋ぎ飼いのホルスタイン搾乳牛=7月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校



風通しの良い場所での休息=6月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校

牛舎に張り巡らされたパイプラインと搾乳機を自動搬送することで、一日2回、午前5時と午後4時に楽に搾乳している山形東先生=8月19日、八ヶ岳中央農業実践大学校



佐藤衆介(さとう・しゅうすけ)
1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に着任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ヶ岳中央農業実践大学校(原村)の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」(東京大学出版会、2005)など。

